



桜

(仏教タイムスより)

8月6日

広島原爆忌

大阪で平和の祈り巡礼 米国から大司教も参加

広島原爆の日である6日午後、平和を求めて大阪市内を十数人の宗教者が行進する「平和の祈り巡礼」が開催された。代表は鹿児島市で長年、超宗教による平和運動を続

けている鎌田厚志氏（曹洞宗直指庵住職）。永平寺での後輩である佐藤徹亮氏（大阪市天王寺区・浄春寺住職）と、同じく超宗教の平和運動に取り組む森俊英氏（堺市・浄土宗正明寺住職）が協力し、非核、パレスチナやウクライナの平和を無言の行脚で呼びかけた。

浄春寺で原爆直後の映像を見てその惨状を胸に焼き付け、原爆の火が入った提灯を持って出発。米国の核監視団体「ニュークリアウオッチ・ニューメキシコ」事務局長で、禅者でもあるジェイ・コグラン氏が参加したほか、午前中に広島での平和祈念式典に出席していたカトリックのジョン・ウエスター大司教（ニューメキシコ司教区）も駆けつけた。まずは同区のと宗総本山四天王寺の英霊堂を参拝。迎えた新井順證総務部長は、英霊堂が本来は鐘楼堂として作られたが、その鐘は戦時中の金属供出により失われた歴史を紹介。広島県出身の新井氏は被爆二世であることにも触れ、近年は原爆の記憶が風化し「かつていいもの」のように考える若者が出てきて



四天王寺境内を巡礼する宗教者たち

に考える若者が出てきていることも懸念。「戦争経験者に少しでも近い人で、本当の戦争は何なのかを伝えていかなければいけない」と語り、巡礼者たちの活動に期待した。賛同寺院で休憩しつつ、大阪空襲で甚大な被害を受けた高津宮（中央区）を参拝し平和祈願。夕方6時頃に最終目的地の力トリック玉造教会（同区）に到着した。前田万葉大司教（長崎県出身の被爆二世）と歓談。「宗教者が一つになって平和の祈りを捧げる、こんな素晴らしいことはない」と前田氏は称賛。アッシジの聖フランチェスコの平和の祈りを奉読した。米国の国策に抵抗して反核運動を長く続けているウエスター大司教は「原爆を落としたアメリカ人に不快感や偏見を持つ人もいるかも知れないが、こうして一緒に巡礼することで偏見がなくなり、宗教や国籍にかかわらず協働して平和のために何かを成し遂げることが出来るホープを強く感じます」と力を込めた。巡礼を終えた鎌田氏は「巡礼を見て平和を考えてくれる人が一人でもいてくれればありがたい」と話し、「四天王寺や玉造教会の桜の苗を頂いて育て、ウクライナやカザフスタンに『祈りの桜』を植えたい」と未来を語った。この日は鎌田氏と志を同じくする宗教者により東京・鹿児島でも同時平和巡礼が行われた。